

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	慈豊会の理念は、ご利用様がその人らしく生き生きと生活できるような内容になっており、管理者・職員全員は、基本理念を常に頭におき意識してサービスに反映するよう努力している。また、より良い暮らしを実現して頂けるよう日々努力している。	法人共通の基本理念のもとにご利用者がその人らしく生き生きと生活できるようにしています。理念は忘年会時に全員で確認したり、事務所や職員用トイレにも掲示し、日々意識して業務を行えるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方々へ積極的にお話する機会を持つたり、畑作りのアドバイスを頂く事で交流を深めている。また、運営推進会議や年2回の消防署立ち会いの避難訓練にも地域の方から参加して頂いている。また、ホームで行う秋祭りでは、地域の方々をご招待し、日々の感謝をお伝えする場としている。	近所の方が事業所の畑作業を自発的に手伝ってくれたり、ホームで行う秋祭りにも地域の方が参加してくれています。また、ボランティアの方にも定期的に来ていただくなど、地域との交流を行っています。	小学校や保育園とも今後交流の機会が持てるように検討されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解に関しては、日々ご利用者様と一緒に話す機会を設けるなどして少しずつ理解して頂いていると思う。また、支援の方法については、積極的に地域の方へご説明はしていないが、相談を受けた時には分かる範囲でご説明できるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催し、入退居・待機の状況報告、ヒヤリハット報告や事故報告、行事の内容報告を行っている。その際、忌憚のないご意見を頂けるようお願いをしており、率直なご意見やアドバイスを頂いている。委員の中には高齢者施設関係の方がおられるので、入居されている方々の状況を理解して下さった上でご意見を頂いている。それを全職員に伝え、サービスに活かすよう努力している	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、市の担当者・協力施設の特養の施設長・隣接するデイサービスの管理者、自治会長などに出席していただき、ヒヤリハットや事故報告、ホームの活動報告などを報告し、ご意見やアドバイスをいただいています。	運営推進会議にご家族がより参加して頂けるように検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退居の状況を毎月報告している。また、運営推進会議の資料を毎回提出しており、事あるごとに現状をご報告している。分からない事はすぐ担当者にお聞きするようにしており、関係を築けるよう努力している。	市の担当者には運営推進会議にも毎回出席していただいているほか、入退居状況を月に一回必ず市の担当者に現状報告に伺っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜勤者が一人になる時間帯までは、玄関を施錠せず、外に出られるようにしている。危険のないようにだけ十分気を付け、お好きなように出られる環境作りを続けている。 身体拘束については、年に1回必ず内部研修を行うことにしており、管理者・職員共通の意識を持ち、日々のケアをおこなうよう努力している。 新人職員研修でも、身体拘束については必ず説明し、何が身体拘束に当てはまるのかを考えながら業務にあたれるようにしている。	開設時から身体拘束は行わない方針のもと、身体拘束は行っていません。また、身体拘束についての職員理解を深めるため、新人研修や内部研修を行ったり、言葉の抑制についても気がついた時に管理者が指導し、改善に努めています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については常に頭に入れておかなければいけない事。今までは以前行った内部研修の資料を基に、職員で虐待防止に努めてきたが、今後は毎年内部研修を重ね、意識を高めていくこととする。	身体拘束の研修時に虐待についても研修を行い、職員の理解を深めるように努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいる。職員の数名は把握しているが、今年度入社した職員が多数いる為、今後学ぶ機会を設けていく予定。その結果ご家族様に説明できるよう基礎知識の向上に努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者より十分な説明を行っている。不明な点はその場でも後日でもご理解頂けるまで説明している。又、改定があった際は、改定内容を分かりやすく文書にし、全ご家族様に提出している。この際も、不明な点についてはご説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様・ご家族からの意見・要望については、随時お聞きする体勢を整えている。2ヶ月に1回開催する運営推進会議や家族の集いでは、参加された方々から意見・要望を出して頂けるよう努めている。ご利用者様・ご家族からの意見・要望は、全職員で把握し、運営に反映するよう努めている。	ホームの玄関に意見箱を設置しているほか、面会時のやりとりにてご家族の意見を確認しています。また、運営推進会議にはご家族全員に案内を出し参加していただくように努めているほか、秋祭りの前に家族の集いの場を設け、より多くの意見を頂きサービスに反映できるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各ユニットで会議を開き話し合いの場を設けている。又、随時管理者は職員の意見を聞くよう努めている。様々な場面で出た職員の意見は、管理者から理事長に伝え、業務に反映してもらっている。	毎月のユニット会議やリーダー会議にて職員と話し合う場を設けているほか、毎回ではありませんが理事長にもユニット会議に参加して頂ける機会を設けており、職員の要望に応えられるように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人が取得している資格を給与に反映してもらっている他、理事長と職員で給与水準について確認を行う機会がある。個々の努力や実績については、賞与や昇給時に考慮してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりについては、理事長が目にした勤務状況と管理者からの情報をすりあわせて把握して評価している。また、管理者や職員が法人内の研修を受け、個々にレベルアップが図れるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内のグループホーム管理者が意見を交わしたり、各事業所の取り組みなどを報告する場を設けるようにしている。また、他のグループホームの見学や職員の交換研修の場を設けたり、交流会を行ったりしている。しかし、法人内で大幅な職員異動があり、落ち着くまでという事で数ヶ月行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接でご本人からの要望・不安または困っている事はないかを確認している。入居後は、日々の生活を共にする中から、ご意見ご要望を自然な形で受け入れるように努めている。また、それを記録に残し、職員全員が周知及びサービスに反映できるよう努めている。記録や職員間の意見交換も含め、6ヶ月毎のサービス計画を作成し、毎回ご利用者様・ご家族様の同意を頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の面接時にご家族様から、不安な事や要望をお聞きしている。安心して入居して頂けるよう丁寧に説明し、ご家族様との良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時にご利用者様・ご家族様によくお話を伺い、また入居後日々の様子を見てどのような支援を必要としているかを見極めるよう努めている。その支援方法をサービス計画書に記載し、ご家族様へ説明を行い、意向に沿った内容であることを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様のお好きな事・得意な事の把握に努め、日々その人らしく暮らせるよう配慮している。又、全入居者様と職員が家族として生活できるよう日々関係作りに努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様は、ご利用者様にとって一番大切な存在である事を忘れず、どのような時でもその存在を大切に思ってもらえるような様々な場面で会話に入れる努力をしている。又、ご家族様にはご利用者様との関わりを減らさないよう、受診・洗濯の度に来て頂くようお願いしている。ご家族様と職員とでご利用者様の生活を支えていけるよう努めている。	3ヶ月に1回事業所の広報を作成しお送りしているほか、各担当者より毎月ご利用者の生活の様子をまとめたお手紙も作成しお送りしています。また、ご家族が面会に来られた際は、日ごろの様子や最近の様子をできる限りお伝えするよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診・散髪はできる限り以前から通われていた所へ行って頂いている。又、いつも来て下さるご家族様以外の親戚の方が来られた時や、自宅のご近所仲間の方々が来て下さった時は、いつでも遊びに来て頂けるようお声掛けしている。	ご家族にも協力していただき、自宅への外泊や馴染みの美容室への利用支援、また知り合いの方にも面会に来て頂くなどし、馴染みの関係が継続できるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット毎であったり、両ユニットで楽しめる時間の提供に努めている。又、気の合うご利用者様同士が、安心して楽しく生活できるよう配慮している。ご自分から会話の輪に入れない方に関しては、職員が間に入り、他ご利用者様との関係作りができるようお手伝いしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご本人やご家族様との関係を断つことなく、必要に応じて相談のったり支援できる体勢にある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりの思いをお聞きして生活記録に残し、全職員が把握できるよう努めている。困難な事もできる限り近付けるよう職員間で話し合っている。	ご利用者お一人お一人と接する中で確認できた意向は生活記録に記録し、全職員が把握できるようにしています。また、共有した情報をもとにその都度対応を話し合い、必要時は買い物支援を行うなどご本人の意向に沿えるよう努力しています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様との会話から得た情報・カンファレンスや来所時にご家族様から得た情報等を基にこれまでの暮らしの把握に努めている。	お一人お一人と話をする中で得た情報や、ご家族からの話をもとにフェイスシートに記録し、ご利用者の情報を把握しています。また、6ヶ月に1度のカンファレンス時には定期的な情報の見直しをしています。	ご利用者の情報を各担当がより把握するためにも、センター方式を活用し情報収集が行われることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの毎日の過ごし方や心身状況、人間関係などを細かく記録に残し、職員全員で把握に努めている。又、ご利用者様が得意とすることを把握し、力を発揮する場の提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に日々のご様子を把握し、ご利用者様に必要なケアは何かを検討する。検討した内容を基に、ご家族様・計画作成担当者・担当・管理者でカンファレンスを開催する。その場でご家族様とも意見交換を行い、その方にあった介護計画書を作成するよう努めている。	モニタリングは毎月担当職員が実施し、6ヶ月に1回のペースでカンファレンスを行い、定期的に介護計画の見直しも行っています。カンファレンスにはご家族にも参加して頂き、管理者、計画作成担当者、担当職員と話し合いの場を設け、意向に沿った介護計画が作成できるように努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録用紙にはサービス内容を記載し、実施できたか否かを記入している。その他に、入居者様の細かい状況・気付いた事・やってみた事・考察も記入するようにしている。その情報は、全職員で共有し、次の介護計画に活かすよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診・買い物に関しては、ご利用者様・ご家族様の状況によっては職員の方で代行している。又、必要に応じて他機関を利用してスムーズに行えるようにしている。他サービスに関しては、スムーズに利用できるよう管理者が連携をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出や散歩に出掛けるようにしたり、ボランティアの方に訪問して頂く機会を設けている。又、畑作業は、ご近所の方と一緒にいる事もある。畑仕事が得意な方は生き生きと楽しめ、得意でない方にも収穫の楽しみを感じて頂けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族様に付き添いをお願いしており、殆どの方が入居前からお世話になっているかかりつけ医に診て頂いている。中にはかかりつけ医に往診をお願いしている方もいる。急な体調不良の時は、受診日以外でも医師に連絡を取り指示を仰ぐようにしている。急ぎではないが指示を仰ぎたい時は、手紙を用意し、ご家族様から渡して頂いている。又、手紙でお伝えする事が難しい時は、ご家族様の了承を得て職員も一緒に付き添い説明を行っている。	基本的に定期受診はご家族にお願いし、かかりつけ医に診ていただいています。往診にも来て頂いているほか、必要に応じてご利用者の状態を職員がお手紙にまとめご家族に渡したり、直接医師に電話をしたり、職員が同行するなどして受診支援を行なっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の変化について細かく記録に残している。急を要しない場合は、看護師が出勤時に報告・相談をし、適切な指示を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院した際は、管理者が出向いたり連絡をとり現状を伝えている。又、入院中も病院関係者と連絡を密にとり、現状の把握に努めている。そして、もとの生活に戻れるよう情報交換や相談に努めている。時には医師と直接会い、今後の相談をさせて頂くこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にホームでできるケアについて説明している。現段階で終末期を迎えて頂く事は考えていない。心身の状態変化が見られた時は、管理者がご家族様・かかりつけ医、または包括支援センターとの相談を行い、必要なサービスを受けられるよう連携をとっている。	契約時の重度化した場合や終末期の対応に関するホームの考え方を説明し、ご本人の意向やご家族の意向をお聞きし、医療的なケアが必要なればできる限りはホームで支援したいと考えています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による内部研修を行い、急変や事故発生時の対応に備えている。又、緊急時に備え連絡網やマニュアルを用意している。又、今後は救急隊による研修を受ける事を検討中。	看護師から誤嚥や嘔吐の対応や感染症について研修を行ってもらっているほか、消防署の職員にも来て頂き、AEDの操作研修や人工呼吸の講習なども予定しており、職員が適切な初期対応ができるよう努めています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署立ち会いのもと、日中・夜間想定で火災・地震に備え避難訓練を行っている。避難訓練には、地域の方にも協力して頂けるようお願いしている。常時非常口・手すり付近には物を置かず、避難経路の確保に努めている。	年に2回消防署立ち会いのもと日中・夜間の火災を想定した避難訓練や地震を想定した避難訓練を行っています。避難訓練には地域の方にも参加していただき、協力していただけるようお願いしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用様の気持ちや生活のペースを大切にしながら言葉かけや対応に努めている。又、その対応でご利用様の暮らしを支えられるよう努力している。	契約の際に広報誌に写真・名前を載せることをご家族に確認を得ています。また、管理者が気づいた際には職員の言葉の使い方等も徹底するなど、ご利用者のプライバシーを損ねない支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃からご利用様とたくさん会話をするように心掛け、ご自分の思いを話しやすい環境作りに努めている。なかなか自分から表現できない方に対しては、関わる中から思いを引き出す努力をしている。知り得た情報は、必ず記録に残し全職員で共有し、ご意向に添えるよに話し合いを持つようになっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まずは職員中心の生活にならないよう努めている。ご利用様の生活リズムを把握した上で、		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様から、季節に合った衣類を用意して頂いているので、ご自分から選んで着れるようタンス等を整理している。季節が分からずご自分で調節できない方に関しては、季節に合った衣類を着れるよう職員の方で支援している。 身だしなみをご自分で整えられる方については、居室にも鏡がついており整えておられる。ご自分でできない方に関しては、職員の方でお手伝いさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の食べたいものを提供できるよう、希望献立の日を設けている。また、買い物・食事作り・片付けまで、入居者様と職員と一緒にやって行っている。食事の際は、各テーブルに職員が入り、様々な会話を楽しみながら食事をしている。	メニュー作りは職員が交代で作成し、週に2回は希望メニューを取り入れるなどご利用者の好みを取り入れています。また、食事の準備・片付けができるご利用者には協力していただいております。事業所の畑でのジャガイモやネギなどの収穫もご利用者と一緒にしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通して30品目が入るように心掛け献立を組んでいる。食事摂取量・水分摂取量は個々に記録し必要な栄養を摂れるよう努めている。食事をきちんと摂れない場合は補食をお出し、栄養を摂れるよう配慮している。 また、お一人おひとりの状態に合わせ、必要に応じて細かく刻む・柔らかく煮る等の配慮を行っている。しかし、細かくすることで食べたくなくなる事もあるので、お一人おひとりの気持ちにも配慮できるよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・義歯洗浄・うがいをし口腔ケアを行っている。必要な方は、舌ブラシも使用している。ご自分でできる方には、誘導・準備・声掛け・見守りのものして頂き、ご自分でできない方については、職員がお手伝いしている。週2回義歯の消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居から排泄パターンの把握に努め、どのような支援が必要かを検討している。また、トイレ誘導の声掛け等必要な支援を試みている。リハビリパンツを使用されている方でも、定期的なトイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。	新入所から一定期間は排泄パターンを把握するため、チェックを行っています。また、必要な方には排便チェックも行っているほか、リハビリパンツを使用されている方でも、定期的なトイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を常に記録として残し、こまめに水分を摂って頂くよう配慮したり、できる限り食事に食物繊維を取り入れるようにしている。また、散歩にお誘いするなどし、動く機会を多く持って頂くようにしている。 排便がスムーズにいかない方には、腹部マッサージを行う等の対応も行っている。 排便の有無をできる限り確認し、記録に残している。様々な対応を試みてもスムーズな排便に繋がらない方については、かかりつけ医に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の予定は立てているが、入りたくない方には無理をせず、入りたい方には入って頂くようにしている。また、足浴や清拭も行い、その時・その方の状態に合わせて対応している。	入浴予定を立て、週に2回は入浴を楽しんで頂けるようにしています。また、入浴を嫌がるご利用者にもうまくタイミングを見計らい声かけしたり、足浴・清拭でも対応しています。	調査時点では、入浴に関してケース記録への記入漏れがありましたので、記録方法の職員への徹底を行われることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各ユニットに畳コーナーがあり、時には横になって休息して頂く場所として活用している。また、日中休まれる方には居室でゆっくり休んで頂いている。夜間寝付けない方には、できる限り職員が寄り添い安心して頂けるよう心掛けている。また、日中帯の過ごし方も、職員からの声掛け・レクリエーションを行い楽しんで頂くよう心掛け、昼夜逆転にならないよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際、数量・用法・効能・副作用を確認し、変更の際には症状の変化を記録に残し、必要時はかかりつけ医に報告・相談をし指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの生活歴の把握に努め、その人がその人らしく生活するためには何を支援したらよいかを検討する。そして、お一人おひとりの得意とする事をして頂く場を設けるよう努めている。また、仲の良い方と過ごせる場・時には何人かの方と過ごせる場を、レクリエーションや外出で作り、楽しみながら気分転換を図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出る事に関しては、その日のご希望通りに支援している。あとは、季節毎に行事を計画し花見等にお連れしている。また、毎日買い物にも行くので、順番ではあるがドライブを兼ねてお連れしている。 その他では、自宅に行きたいというご希望があれば、ご家族様に協力して頂き出掛けて頂いている。地域の方からご協力は頂いていないが、今後外出ボランティアなどもお願いできたらと思っている。	毎日買い物にお誘いし外に出られる環境を作っているほか、季節に応じてお花見、いちご狩り、紅葉狩り、チューリップ祭りに出かけるなどの外出支援も行っています。	よりご利用者の意向に合わせて外出支援ができるように、担当者による個別外出の機会も検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の際、お金の管理が可能か否かをご家族様と相談しているが、入居されている方々は認知症の為、お金は職員が責任を持って金庫で管理させて頂いている。ほしい物があったり、必要な物がある時には、金庫から出し、職員が代行して支払っている。今後、支払能力を維持できている方には、ご自分で支払いをして頂けたらと思っている。また、今後少しでも持っていたいと言う方がいらした場合は、ご家族様の了承のもと、管理して頂きたいと思う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様からご家族へ電話をかけたいとご希望があれば、通話までを代行しお話を頂いている。手紙のやり取りについては、ご自分から希望される事がない。しかし、年賀状にはご家族にあてて言葉を書いて頂くか代行して書くか、お送りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・リビングには花を飾ったり、飾り物をして季節を感じて頂けるよう配慮している。又、ご利用者様の生活スペース全てにおいて、混乱をまねかないよう・危険がないよう日頃から管理している。音や光、温度に関しては日々変わるので、その都度調整をしている。	居間や台所には季節の飾りを作ったり、手作りのカレンダーを配置して季節がわかる様工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他に畳コーナーやキッチン裏のベンチがあり、気の合う入居者様同士で過ごして頂けている。時には、居室でお喋りをされたり、思い思いに過ごして頂けるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、出来る限り使い慣れた物を運び入れて頂けるようお願いしている。使い慣れたテーブル・タンス・テレビ・ラジオ等をお持ち頂いている。入居後に必要となった物は、随時運び入れて頂くようお願いしている。	居室にはなるべく自宅から使い慣れた物を持ってきていただくように声掛けしており、居室毎にご利用者の個性が出るよう工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間は全てバリアフリーになっている。お一人で歩いたり、車椅子でも使用できるよう、廊下やトイレ・お風呂場には手すりが設置されている。浴槽も便器も家庭用を設置している。 居室の場所を覚えられない方には、居室ドアに名札や飾りを付けるなどしている。トイレにも張り紙をし、分かるようにしている。 その他で分からない所があったり、出来ない事があった場合は、その都度職員で話し合い、出来る限り自立した生活ができるような環境作りに努めている。		